

今月のみことば 2020年3月

「主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。」

(ローマ人への手紙4章25節)

私たちのために死に勝利されたお方

現在、世界を震撼させている感染症があります。「新型コロナウイルス」は無症状である場合でも感染している可能性があるとして、その危険シグナルは、国外のみならず日本においても、マスクが売り切れる店が続出するといった現象に現れています。目に見えないからこそ感染症の恐ろしさを実感します。日に日に感染者数が増え、亡くられる方も多くおられ、心が痛むばかりです。一日も早い終息を願っています。



さて、そんな私も日頃から体調管理をしており、昨年はインフルエンザの予防接種をし、手洗い・うがいの励行やマスク着用をしていましたが、インフルエンザに罹患してしまいました。これだけ衛生対策をしても感染してしまうことに愕然としたのを記憶しています。私たちは体調管理や衛生対策をしっかり講じていても、病気になったり、罹患したりすることは少なくありません。食事に気をつけていても重病を患うこともあります。そしてそのような病が原因で死に至るケースは数え切れません。ましてや、私たちは風邪やインフルエンザから回復したとしても、究極的には死から回復することはできません。私たちの人生の最期には必ず死が訪れますが、その死から免れることはできません。私たちが病気やウイルス感染に心捕らわれるのであれば、“死”について考えることはもっと重要なことではないでしょうか？なぜなら、自分自身にとって最悪な出来事であり、可能なら避けたい出来事だからです。

さて、ここで一つ疑問が残ります。それは、そもそも「人はなぜ死ぬのか」という疑問です。読者の皆様はどうお考えになるでしょうか？実は、聖書は非常に明快にこの問いについて答えています。それは、「創造主である神に最初に造られたアダムが、神のご命令を破り、善悪の知識の木から実をとって食べてしまったから」と。それゆえ、人は死ぬ者となった、と聖書は語ります。元々は永遠に生きる存在で神とともに歩む人間でしたが、神のご命令ではなく自分の考えを優先する、という行動をアダムはとりました。それは、“**神なしに生きることを決断した**”ことを意味しています。赤ちゃんが母親から離れたらすぐ死んでしまうように、小さな枝が大木から切り離されたらすぐ枯れてしまうように、私たちも創造主である神から離れてしまったので、死ぬ者となってしまいました。つまり、神に背いて生きているのが私たちなのです。



しかし、創造主なる神は、そんな私たちともう一度関係を取り戻したい、元の良い関係、むしろ本来の関係に回復したい、と願っておられるのです。その神のご愛こそ、イエス・キリストの十字架です。神の御子が人となり、私たちの背き（神なしに生きること）の罪のために、2千年前に十字架に架かれ死なれました。それは、私たちともう一度関係を回復なさるためです。そればかりか、**私たちが義（神との正しい関係）と認められるために、3日目に復活されました。**ここに、神のご愛が現されています。そして、このご計画はすでに完了しています。あとは、「私たちのために死なれ、復活してくださったイエス・キリストを救い主として信じる」だけです。私たちは目に見えないウイルスの存在を信じますが、ましてや世界の創造主、私たちの造り主なる神を信じることは幸いなことです。聖書より、死を打ち破る希望について、真の神、私たちの救い主についてご一緒に考えてみませんか？



皆様の日々の上に、御子を惜しまず捧げてくださった神から豊かな恵みと守りがありますように。(M)